

9 新発田市民における口腔衛生の実態と意識調査

幸田奈美, 平澤明美, 本間和代
明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 口腔衛生, セルフケア, プロフェッショナルケア

はじめに

近年, 予防歯科の広がりとともに, 国民の口腔衛生に対する意識や行動が高まってきている. 明倫短期大学では, 6月の歯の衛生週間に新発田市歯科医師会が実施する「むし歯予防週間公衆衛生事業」に平成8年より参加し, 毎年約200名の市民に対し口腔衛生指導等を行ってきた. 今回, 本事業に参加した新発田市民に対し日ごろの口腔衛生の実態と, その意識について調査したので報告する.

対象および方法

対象者: 「平成20年度むし歯予防週間公衆衛生事業」の口腔衛生指導に参加した新発田市民173名
時期: 平成20年6月7日(土)
方法: 口腔衛生指導時の聞き取りにより調査した.

結果

対象者は5歳未満が43.9%, 5歳以上10歳未満が43.9%, 10歳以上15歳未満が8.1%, 15歳以上が4.1%と小児の割合が高かった. また, 男子49.7%, 女子50.3%と性差はなかった. 毎日歯を磨いている者の割合は100%で, 回数別には, 図に示すとおりで1日3回磨く者の割合が高かった. 平成17年歯科疾患実態調査では1日2回磨く者が最も多かったことから, 対象者の口腔衛生に対する意識の高さがうかがえた. 1日3回のブラッシングのうち, う蝕予防効果が高いと考えられる就寝前のブラッシングを行っている者は97.1%であった. 歯磨剤は89.6%の者が使用していた. 歯ブラシ以外の補助清掃用具を使用している者は26.1%で, フロスの使用が最も多かった. また, これまでに歯科医師や歯科衛生士から口腔衛生指導を受けたことのある者は66.5%, 歯科医院で定期健診を受けている者は63.1%だった.

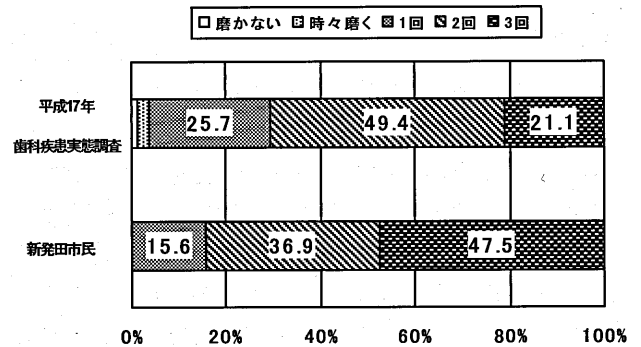


図 1日の歯磨き回数

考察

1日3回磨く者の割合が多いことから, 各個人のセルフケアに対する意識は, 非常に高いのではないかと考えた. しかし, 専門家による口腔衛生指導や, 定期健診の受診などのプロフェッショナルケアは全体の約60%程度にとどまり, これらの行動がすべての人には定着していないことがわかった. 今回, 参加者のうち, 小児の割合が多かったことを考えると, 特にフッ化物歯面塗布などは, 継続的な受診で効果が上がることから, 今後, さらに定期健診の受診を促す指導が大切であると考え.

まとめ

本事業に参加した市民の口腔衛生に対する意識は非常に高いことがわかった. 今後は, セルフケアだけでなくプロフェッショナルケアも両立し, 継続させていく必要があるとともに, 1人でも多くの市民がかかりつけ歯科医をもち, 定期健診受診により口腔の健康を維持し, QOLの向上につなげるよう支援していくことが重要であると考えている.